

# 衣食住に見る冬の知恵

毎年十一月から三月まで雪と氷におおわれるカナダ。日中の気温が零下十度や二十度はザラという条件の下で、快適に暮らすには、衣食住にさまざまな工夫が要る。

## 衣

まず防寒着。日本にもおなじみのカウチン・セーターは、もともとカウチン族インディアンが寒い戸外で作業するために作ったもの。脱脂しない自然のままの極太毛糸で緻密に編むため、防寒、防水、耐久性にすぐれている。



上質の毛皮や皮革を使ったコートやブーツも戸外での機能が抜群。内側に断熱性の高い新素材の繊維やフェルトを張ったり、袖口などに外気を遮断する工夫をこらしてある。カナディアン・ホワイトグースのダウンを使ったコートやスキーウェアも寒さには強い。最近では防水、除湿、保温、軽さなどの点で、天然素材の上をいく新素材(ゴアテックスなど)を特殊加工した上衣やスポンも出回ってきた。マクラクと呼ばれるスノーブーツは、靴底がかんじきと一緒にはけるように工夫され、中は二重のウール張り。北方では手袋も重ね合わせ式だ。

**食** 食に関しては、今日保存法と輸送手段の発達で、冬でも野菜や肉や魚がとれたてと変わらない味と栄養価で楽しめるようになった。カナダで冷凍食品や缶詰などの食品加工業が発達したのも、ひとつには冬の食料対策が大ききな理

由である。

冷凍食品や缶詰を味と栄養を壊さずいかに上手に調理するかの研究も盛んだ。カナダ農務省が、「スキーツアーのための料理」とか「冷凍・缶詰素材を使ったクリスマス料理」というガイドブック

を、たくさん発行したりしている。カナ

ダの加工食品では、いかに人工の味を作るかではなくて、いかに自然の味と栄養を残すかに知恵を絞っている。炭酸ガスを充填した低温環境で野菜や果物を冬眠させる保存法も、よく使われている。

## 住

冬の長いカナダでは、保温性にすぐれ、快適でしかもエネルギー効率の大きい住宅が好まれる。

従来から、カナダの家は分厚くどっしりした木材を使ったり、二重壁、二重窓など断熱化に工夫をこらしてきた。政府は住宅と建材の断熱度を示すR指標を決め、誰でも客観的に断熱性能を判断できるようにしたりしている。

一昨年、政府は業界と協力して、「超省エネルギー住宅計画」を発足させた。これは断熱材だけでなく、総合的な省エネルギー技術を使って、従来通りの快適なライフスタイルを保ちながら、居住に要するエネルギー量を五〜八割減らそうという、

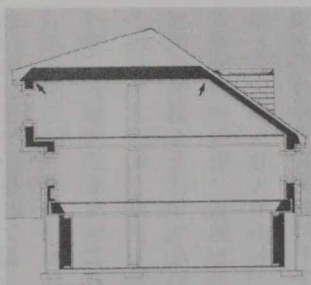
一方、寒い中をじつと動かずにレジャーを楽しむ人々もいる。氷上穴釣りがそれだ。最近ではストロー付きの小さな貸し小屋(一〜二人用)商売が流行っている。氷上で重たい丸石をゴールめがけて滑らせ、ホウキで前方をはきながら誘導するのがカーリング。アイスホッケーが観るスポーツなら、こちらは友人や家族同

意欲的な住宅改善計画である。

西暦二〇〇〇年に向けてR-2000

住宅と呼ばれるこの家は、エネルギー効率のよい構造設計、断熱基準の改善、気密性と遮湿性、廃熱回収システム、暖房装置の小型・効率化を主体としたもの。どんな地域、建築様式にも適用できる省エネ技術の粋を集めた住宅で、政府は初年度(八三年)三百棟を建てることにした。

例えば断熱化の工夫を見ると、地下室、外壁、屋根裏などに特殊断熱材を使った、厚さを倍増したり、多重化する。ま



外りる、取り込み、用室に組み、倍部を組、3部を組、2部を組、の空気(矢)、通気性を確保、常温の新鮮な空気を導入するシステム、断熱材を入れるシステム、R-2000住宅。

た換気の際、部屋に取り入れる外気と外に出す温かい空気の間で熱交換するシステムを壁に組み込む。内壁はポリエチレンの気密・防湿膜ですっぽりくるみ、ド

士で和気あいあいを楽しむ社交的なスポーツ。冬は各種のトナメントでにぎわう。スケートの代わりにスニーカーをはき、スティックの代わりに先を切り揃えたホウキでゴムまりを追っかけるブルームホールも、新しいスポーツとして人気が出てきた。今冬には早速日本にも紹介され、愛好者も増えてきた。

アや窓には密閉シールを用い、場合によっては玄関はエアカーテンを取りつける。窓はなるべく南面にとり、二重、三重ガラスにする。

R-2000住宅は、いわば政府が奨める省エネのモデルハウスだが、民間でも暖かく快適で、かつ経済性の高い住まいにするために、いろいろなアイデアが生まれている。例えば、煙突から暖気が逃げる暖炉に代わる屋外用ガス燃焼装置、断熱性にすぐれたファイバーグラス住宅、ログ(丸太)ハウスの壁のすきまを防ぐ密閉剤、コンクリート外壁に取りつける断熱パネル(ポリスチレンフォーム)にグラスファイバーをコーティング)などの開発がそれである。

冬季の建築技術も、一昔前とくらべて格段に進歩した。以前は冬になると作業をストップしていたのが、気温が氷点下でも作業ができるように、例えばあらかじめ混合加熱したコンクリートを使った、建築現場にすっぽりかぶせて内部を暖房できる大型テントが開発された。このため、建築労働者の通年雇用が可能になったという。